

「白い森の国おぐに」森づくり活動の取り組みについて

小国町は、全国有数の豪雪地帯であり、「ブナの森」をはじめ、町全体を覆い尽くすように落葉広葉樹林が広がっています。この豊穡の森の象徴であるブナの樹肌と、冬に降り積もる雪から連想される「白」。小国町では町全体を「白い森」と呼び、そこで培われてきた先人の技術と知恵である「ぶな文化」を基軸に町づくりを進めています。

今年度、小国町では、山形県みどり環境交付金を活用して様々な体験活動を開催し、次代を担う子ども達をはじめ多くの住民を対象に、森林や農林業への理解と促進を目的とした事業を展開しています。

白い森づくり体験事業

【おきたま森の感謝祭2023】

大宮地内「町民の森」を会場に、森づくりリレー旗の引継ぎや緑化功労者の表彰のほか、森づくり活動や森づくり教室を実施しました。森づくり教室では置賜地域の緑の少年団の子どもたちが町民の森を散策したほか小国町猟友会の協力による狩猟体験学習を行い、里山の植生や森林と人との関わり方について学びました。



▲森づくりリレー旗の引継ぎ



▲森づくり教室の様子

森から拓く次代の生業づくり事業

【林業機械操作技術研修】

町民を対象に、刈払機に関する安全衛生教育研修と研修受講者による森づくり活動を行いました。機械操作技術の向上と安全な使用方法について学ぶことで、町内の森林整備の促進に繋がるものと期待されます。



▲刈払機研修会の様子

森林セラピー推進事業

【環境整備】

森林セラピー基地「ブナの森温身平」の機能と景観を保ち、訪れる方々が快適に森林セラピーを楽しめるよう、セラピーロードの環境整備を行いました。



▲セラピーロード環境整備の様子

生涯学習講座開設事業

【白い森子ども体験教室】

幼児や小学生を対象に、町内に生息する生物の観察や森林散策を通じて、森林環境やさまざまな動植物の特徴と役割について学びました。



◀◀町内の小学生を対象とした「森の楽校」